おはなし　【うこんさん うこんさん！】（２）

●　「うこんさん、うこんさん！　あけちみつひでさんのほかに、あらきむらしげさんも、のぶながさんにしたがいませんでしたよね？」

みつひでさんの４年まえのことでしたよ。あのときは、もっともっと、たいへんでしたよ。
わたしたち、たかつきは、むらしげさんのしはい（支配）のもとにあったのですから。
わたしは、むらしげさんに、のぶながさんにさからうつもりなどないという、ほんとうのきもちを、いのちがけでうったえるようにと、いもうとやむすこのじゅうじろう（十次郎）をひとじち（人質）にさしだすことまでして、うったえました。
むらしげさんも、いちどはわかってくださったのですが、さいごは、そのようにはなさいませんでした。
のぶながさんのもとにあって、だいじなことをまかされてしたがっていたのに、のぶながさんをてきにして、たたかうというむらしげさんは、ただしくないとおもいました。

でも、どうしたらいいのでしょう？　あの、しんこうふかかった父（飛騨守・ひだのかみ）までが、ひとじちにさしだしているむすめやまご、かわいさに、しんこうからはずれて、わたしが、むらしげさんにしたがわなかったら、せっぷく（切腹）する！　しんぷ（神父）さまをはりつけにする！　などといった、とんでもないことをいいだしたりして、わたしをますます、くるしめました。
のぶながさんも、しんぷさまやキリシタンたちをみなごろしにすると、おどしをかけてこられました。

このときほど、ひっしに、しんけんにいのりつづけたことは、それまでありませんでした。
「デウスさま。イエスさま。このたいせつなとき、むずかしいもんだいについて、どのようにしていけばいいのでしょうか。イエスさまなら、どのようにされますか。せいしょのおしえでは、どのようになっていますか。しんぷさまのおしえを、あれこれおもいめぐらせていますが、どうすればいいのか、こたえをみつけることができません！」
たべることも、のむこともわすれて、ひっしに、いのりつづけました。

そしてついに、デウスさまは、わたしのひっしのいのりに、ひとつのこたえをあたえてくださいました。それは、のぶながさま・むらしげさまのどちらにつくのか ――ということではなくて、たかつきのしろをさり、すべてをデウスさまにささげて、これからはデウスさまやきょうか

いにつかえていく（献身・けんしんする）ということだったのです。
　このこたえをもって、わたしは、かみのけをそり、かみ（紙）のきものにきがえて、のぶながさまのところにでかけていったのでした。

　しかし、のぶながさまは、わたしのおもいどおりにはさせてくださらなくて、それからは、キリストきょうをたいせつにしてくださったのぶながさまに、つかえていくことになりましたが、それも、デウスさまのおこころかもしれないとおもいましたよ。

　ひとじちとしてさしだしていた、いもうとやわがこ・じゅうじろうはぶじでしたし、のぶながさまをあいてにしてたたかった父（ひだのかみ）のいのちも、のぶながさまは、とくべつにゆるしてくださいましたよ。
　すべてのことを、デウスさま・イエスさまに、こころから、かんしゃしました。

● 「うこんさん、うこんさん！　お父さんのひだのかみ（飛騨守）さんは、どんな人なんですか？」

　いっぽんぎ（一本気）で、まがったことがきらいで、まっすぐなせいかくの父ですよ。
　そんな父が、まず、キリシタンのしんこうをもちました。
　それまで、“なむみょうほうれんげきょう”などと、おきょうをとなえて、ねっしんにぶっきょうをしんじていたのですが、キリストきょうをやっつける！　といって、なら（奈良）にでかけていったのに、ロレンソさんのはなしをきいて、これだ！　とおもって、キリシタンになり、ビレラしんぷさまから、せんれいをうけたのです。ダリオというなまえを、いただきました。

　そのあとすぐ、さわ（沢）のおしろにも、ロレンソさんにきていただいて、わたしたちにも、おはなしをきくときをつくってくれました。このとき、ロレンソさんのはなしてくださったデウスさまやキリストさまのはなしをきいて、わたしも、てんちをつくられたのはこのおかただ！このおかたが、わたしをあいしてくださっているということがわかって、デウスさまをしんじて、キリシタンになり、ロレンソさんから、せんれいをうけました。１２さいのときでした。
　わたしは、ジュストというなまえを、いただきました。

　いまのわたしがあるのは、すべて、このような父のおかげです。すてきな父だ！　とかんしゃしていますし、そんけいしています。

● 「うこんさん、うこんさん！　つまのジュスタさんのことを、はなしてくださいますか？」

つまのジュスタはね。わたしの、たいせつな、たいせつなたからもの。デウスさまからいただいた、プレゼントなんだよ。

デウスさまが、「十（とお）のマンダメントス」（十戒・じっかい）でおしえておられるように、なん人もの女のひとをつまにしたり、そばにおいたりしてはいけないんだよ。ひとりの女のひとだけを、つまとしてあいして、たがいにたすけあっていくんだよ。

ジュスタは、たいへんなことがいっぱいあったなかで、わたしといっしょに、いつもいのりながら、よくやってきてくれたとかんしゃしているよ。

さいごは、キリシタンとして、わたしや、むすめのルチアや、じゅうじろうのまごたちといっしょに、マニラまでついほうされていったんだからね。

● 「うこんさん、うこんさん！　むすこの、じゅうじろう（十次郎）さんは、イケメンだったのですか？」

わたしからは、なんともいいにくいですけれど、みなさん、そのようにいってくださっていましたよ。

２６年かんいた、かが（加賀・石川けん）のくにで、わたしたち・おやこのことをうたったうたが、はやっていたんだよ。こんなうたです。

♪　のう（能）をみようなら　たかやまみなみのぼう（南坊・わたしのことですよ）
　　おもて（面）かけずの　じゅうじろうを

「のう」というのは、おめんをかぶってする、おどりのようなげきなんだけど、わたしたちおやこのことを、ほめてくれているんだよね。

とくに、むすこのじゅうじろうは、「おめんをつけないじゅうじろうさんが、ステキ！」と、うたっているんだよね。

こどものことがほめられるのは、父おやとして、うれしいことですよ。じまんのこどもです！